

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【川通小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p><学習上の課題> 国語の作文における言語の使い方や正しく表記することに課題が見られる。</p> <p><指導上の課題> 言葉の意味や文の読解を意識した言語活動の時間を確保できていない。</p> <p><学習上の課題> 算数「数と計算」の加減乗除についての習熟に課題がある。また、図形の特徴や構成要素をとらえることに課題が見られる。</p> <p><指導上の課題> 児童の反復・習熟時間が充分でない</p>	<p>目的に応じて適切な言語を選択して話したり書いたりできるように、目的意識を明確にした短文づくりや、言葉の意味を調べる言語活動を、朝学習や国語の授業で積極的に行う。【活動ごとにコメントをいれて評価する】</p> <p>ICTの活用や学習形態の工夫による授業の効率化を図り、毎時間の算数授業後半に計算ドリルやドリルパークなど、習熟に取り組む時間を確保する。【その都度実施状況を確認する】</p>
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> 話し手の意図や、資料から伝わることの中心を的確にとらえて、自らの考えを表現につなげていくことに課題が見られる。</p> <p><指導上の課題> 学習活動が多岐にわたるため、子ども同士が考え、子ども主体の学びとなる授業機会を十分に確保できていない。</p>	<p>伝えたいことや表したいことを明確にできるように、文や資料から読み取ったことを根拠をもって説明する学習活動をより多く取り入れる。</p> <p>算数においては、課題や計画を自分たちで決めて学習を進めていくことで、自ら課題を解決した実感を伴った学びにつなげていく。</p> <p>どの教科においても、ICTを効果的に活用して考えを比べながらまとめ、説明する活動を積極的に行う。【R6さいたま市学習状況調査質問項目「話し合い活動を通して考えを深めたり広げたりできているか」において肯定的な回答90%以上】</p>

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能		<p>①結果分析(管理職・学年主任等)</p> <p>②詳細分析(学年・教科担当)</p> <p>③分析共有(児童生徒の実態把握)</p> <p>職員会議・校内研修等</p>
思考・判断・表現		結果提供(2月)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	<p>国語では、相手に適切な言葉を用いて話すことについて理解ができていた。一方、文中で漢字を正しく使うことに課題が見られた。児童質問「家にどのくらい本がありますか」「新聞を読んでいますか」の回答結果が全国平均よりやや低いことから、本や新聞にふれる機会を増やすことで言葉を知り、自分の考えを広げられるように気付けるようにしたい。</p> <p>算数では、除法の計算や円周率の関係、速さの関係についての理解に特に課題が見られた。また、数量の関係を的確にとらえ、立式につなげることも課題がある。児童質問では算数を学ぶことに肯定的な回答が多いことから、児童個々の課題にあった演習問題により多く取り組み、支援をすることで理解を深め、個別最適な学びになるような授業改善を図りたい。</p>	
思考・判断・表現	<p>国語では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」を中心に、情報を集め、自分の考えを工夫したり、伝えたいことを明確にして表現したりすることができている。「読むこと」では登場人物への想像や場面の効果的を的確にとらえ、自分の考えにできている。これからも、目的を明確にした児童のさまざまな言語活動への丁寧な支援をしていきたい。</p> <p>算数においては、自分の考えを言葉や式などで記述することに大きな課題があり、「どうしてそうなるのか」の理解を深めるためにも、ICTの活用や学習形態の工夫によって、自分の考えと友達を考えを比較しやすしたり、説明したりする協働的な学習場面を、より積極的に設けていくようにしたい。</p>	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	分析共有(児童生徒の実態把握)	中間期報告	中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	<p>漢字・計算スキルやドリルパークを計画的に活用して習熟を図った。</p> <p>文の叙述や使われている言葉に着目して、考えを比較しながら読み取りをしてきた。</p>	特に算数の授業では、児童が何を学ぶのかどこまで到達すればよいかを明確にするために、ルーブリックを活用して個々設定できるようにする。【単元ごと、または授業ごとに実施】
思考・判断・表現	B	<p>ICTを活用して考えたことを児童どうして共有して、考えを広げられるようにした。</p> <p>根拠をもった説明を意識して、学んだことを生かせるような言語活動を行った。</p>	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)